様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年５月３１日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2007～2010
課題番号：19320015
研究課題名（和文）
人口減少地帯における死生観とケアニーズの実態と変容に関する研究
研究課題名（英文）
Researches Realities and Transformation of Views of Life and Death and Care Needs on Depopulating Areas

研究代表者
浅見　洋（ASAMI HIROSHI）
石川県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：00132598

科研費の分科・細目：哲学・宗教学
キーワード：宗教、医療

１．研究計画の概要

石川県内の人口減少地域である奥能登地域の人々の死生観とケアニーズの実態とその変容を明らかにし、それをモデルとして人口減少地帯の終末期医療の在り方を解明することを目的としている。特に、奥能登の同一地区で３年間の期間をおいて同一のアンケート調査を実施することによって、死生観とケアニーズの変容を経時的に把握し、かつ変容の要因を考察する。さらに、当該地域の医療環境と宗教的文化的環境に照らして、将来の終末期医療のあり方について提言する。

その際、考察の基礎資料を得るために、同じ過疎地にありながら、積極的に在宅終末期医療を推進してきた（ないしは推進していた）国内外の３つの地域を調査（視察）する。

２．研究の進捗状況

19 年度に「奥能登在住の住民」と「石川県北部地区の開業医」を対象に「死生観と終末期在宅療養に関する意識調査」を実施し、その調査結果に関する分析と報告を行った。20 年度は石川県内で活動している病院看護師と訪問看護師を対象に同一の調査を実施し、口頭発表をおこなった。結果として医療者は住民に比して自宅療養の希望が高く、終末期在宅療養の可能性については訪問看護師が病院看護師より高い傾向があった。こうした調査結果は 21 年度に中間報告書として公表し、マスコミ（北國新聞、朝日新聞）でも取り上げられた。

また、20、21 年度の夏には典型的な南ドイツの人口減少地帯リーベンゼラ等で在宅終末期医療の現状調査を行うと同時に、在独高齢者の死生観とケアの現状を視察した。前者ではドイツの終末期医療においてキリスト教における Seelsorge という実践神学の取り組みが重要な働きを担っていること、後者にでは異文化で暮らす人々の文化的なケアの必要性が示唆された。この視察報告は石川看護雑誌に第 5、6 巻で行った。

３．現在までの達成度

順調に研究目的を達成しており、現在は平成 22 年度の調査研究を準備中である。達成度は 70％程度と考える。

４．今後の研究の推進方策

平成 22 年度は、平成 19 年度に実施した調査（珠洲市、能登町の 40 歳代から 70 歳代の

住民を対象に調査を実施）と同一方法・対象で調査を行うことによって、当該地域の死生観と終末期医療に関する意識の実態と変容を把握する。その結果は今年度中に報告書として公表する予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

(1)浅見洋、日本人の死生観とケアニーズ、臨床看護 11 月号（へるす出版）、1948-1953 頁、2007 年、査読無

(2)浅見洋、「死生観とケア」公開研究会、臨床看護第 33 巻 13 号、2016-2019 頁、2007 年

(3)浅見洋、人口減少地域における在宅終末期療養に関する住民の意識－奥能登の場合－、北陸宗教文化第 21 巻、277－290 頁、2008 年、査読有

(4) 水島ゆかり、浅見洋、在宅で終末期を過ごした高齢者の苦痛　看護師に表出された苦痛の調査から、日本在宅ケア学会誌　第 11 巻 2 号、57-64 頁、2008 年、査読有

(5) 水島ゆかり、浅見洋、田村幸恵、三輪早苗、医師と住民が望む「理想的な死」、日本在宅ケア学会誌　第 12 巻 2 号（日本在宅ケア学会）、30-35 頁、2009 年、査読有

(4)浅見洋、田村幸恵、浅見美千江、人口減少地域における在宅終末期療養の諸問題－奥能登の住民に対する意識調査より－、石川看護雑誌第 6 巻、19-27 頁、2009 年、査読有

(5) 田村幸恵、浅見洋、水島ゆかり、三輪早苗、Ｉ県北部における在宅終末期医療に関する医師の意識調査、石川看護雑誌第 6 巻、91-98 頁、2009 年、査読有

(6)浅見洋、ドイツ語圏における死生観研究に関する予備調査、石川看護雑誌第 6 巻、107-113 頁、2009 年、査読無

(7)浅見洋、奥能登における住民の在宅終末期医療に関する意識－ 珠洲市・能都町住民への意識調査より－、2007－2010 年度科学研究補助金「調査研究中間報告書」、全 61 頁、2009 年

(8)浅見洋、ドイツ語圏における死生観研究に関する予備調査Ⅱ、石川看護雑誌第 7 巻、109-111 頁、2010 年、査読無

〔学会発表〕（計９件）

(1)浅見美千江、浅見洋、水島ゆかり、人口減少地域における終末期療養の考え方、第 47 回全国国保地域医療学会、2007 年 10 月、石川

(2)浅見洋、人口減少地域における在宅終末期療養に関する住民意識とケアニーズ、第 27 回「ケアの人間学」合同研究会、2007 年 9 月、静岡

(3) 浅見美千江、浅見洋、三輪早苗、清水えり子、住民が望む理想的な死と死亡場所の希望－合併自治体における二地区の意識調査から、第 12 回日本在宅ケア学会学術集会、2008 年 3 月、東京

(4) 田村幸恵、浅見洋、水島ゆかり、三輪早苗、Ｉ県北部の医療に携わる医師の死生観、第 12 回日本在宅ケア学会学術集会、2008 年 3 月、東京

(5) 三輪早苗、浅見洋、水島ゆかり、田村幸恵、Ｉ県北部の医療に携わる医師の在宅死についての考え、第 12 回日本在宅ケア学会学術集会、2008 年 3 月、東京

(6)浅見洋、人口減少地域における終末期医療の現状と課題－死生観調査を通して－、第 27 回NCC(日本キリスト教協議会)宗教倫理研究会、2008 年 6 月、京都

(7) 田村幸恵、浅見洋、彦聖美、病院看護師と訪問看護師の在宅療養に関する意識調査－I県における「死生観と在宅療養についての意識調査」より－、第 13 回日本在宅ケア学会学術集会、2009 年 3 月、大阪

(8) 彦聖美、浅見洋、田村幸恵、病院看護師

と訪問看護師の死生観の比較－I県における「死生観と在宅療養についての意識調査」より－、第 13 回日本在宅ケア学会学術集会、2009 年 3 月、大阪

（9）グリーフケアにおける回復とは－死者との関係をめぐって－、第 36 回比較思想学会、2009 年 6 月、静岡

〔図書〕（計 1 件）

浅見洋、西田幾多郎　生命と宗教に深まり行く思索、春風社、2009 年

以上